



私立短期大学図書館協議会
関東甲信越地区協議会会報



※会報へのご意見・お問い合わせ

会報担当館：新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部図書館 高野 聡 (library@n-seiryu.ac.jp)

====<目次>=====

- ▼ 2021 (R3) 年度関東甲信越地区協議会総会報告
- ▼ 2021 (R3) 年度関東甲信越地区協議会研修会報告
- ▼ 『短期大学図書館研究』第 42 号の原稿募集
- ▼ 事務局だより
- ▼ 編集後記



▼ 2021 (R3) 年度関東甲信越地区協議会総会報告

2020 年度に引き続き、新型コロナウイルス (COVID-19) の感染拡大防止のため 5 月に開催を予定していた関東甲信越地区協議会の 2021 年度定期総会においても一堂に会した会議をせず、書面審議とすることになりました。

6 月 2 日に議案書案を会員にメール送信し、昨年度と同様に「書面審議結果報告書」の提出により審議結果を確認いたしました。45 館中 39 館が提出し、①2020 (R2) 年度事業報告 ②2020 (R2) 年度決算報告・監査報告 ③2021 (R3) 年度幹事校紹介 ④2021 (R3) 年度事業計画案 ⑤2021 (R3) 年度予算案が提出され、審議の結果すべて原案どおり承認されました。

報告・承認事項

1. 2020 (R2) 年度事業報告

(1) 会勢 (2021 年 3 月 31 日現在) 48 館

<入会>

なし

<退会予定>

3 館 つくば国際短期大学図書館 (2021.3.31 付)

佐野日本大学短期大学図書館 (2021.3.31 付)

東海大学医療技術短期大学図書館 (2021.3.31 付)

<館名変更>

フェリシアこども短期大学附属図書館 【旧 鶴川女子短期大学附属図書館】

(2020.4 より)

(2) 総会・合同幹事会の開催

4. 2021 (R3) 年度事業計画

(1) 会勢 (2021 年 4 月 1 日現在) 45 館

(2) 関東甲信越地区協議会研修会の開催

日 時 : 2021 年 10 月頃を予定

会 場 : 未定

テーマ : 未定

※新型コロナウイルスの感染の収束状況などを考慮しながら企画する。

(3) 研究誌『短期大学図書館研究』 (ISSN:0388-3663)

第 40・41 合併号 (2022 年 3 月発行予定) への論稿化の依頼

(4) 関東甲信越地区協議会会報の発行

第 61 号 (2022 年 3 月発行) 総会関係報告

* 協議会 HP (<http://shitantokyo.org/>) に PDF ファイルを掲載の予定。

(5) 本部・地区合同幹事会

・原則として、年間 6 回の開催予定 (奇数月、5・7・9・11・1・3 月)。

・臨時の合同幹事会については総会・研修会準備等の都合により随時開催。

・今年度は Zoom で開催。

5. 2021 (R3) 年度 予算書

予算書は、協議会 HP (<http://shitantokyo.org/>) 会計報告に掲載。

▼2021 (R3) 年度関東甲信越地区協議会研修会

コロナ禍により、依然として対面での研修会の開催が困難なため、第 61 回 (令和 3 年度) 北海道図書館大会 (オンライン大会) の宍道勉氏と木村修一氏による講演「図書館で本と出会う即興劇 15 編」をオンデマンドで配信いたしました。宍道氏が考案された即興劇は、OPAC を使わない本探しから始まる能動的な読書体験など、全国研修会での仁上氏の講演と同様に、従来の図書館の固定観念に捉われないアイデアが満載の講演でした。木村氏は即興劇の効果を検証し、学生を読書に誘導するだけでなく、大学教育に求められている「主体的・対話的で深い学び」に寄与するものであることが示されました。

テーマ : 図書館で本と出会う即興劇 15 編」

配信期間 : 2022 年 3 月 1 日 (火) ~ 3 月 31 日 (木)

講座①「図書館で本と出会う即興劇 15」

講師 : 宍道 勉 氏 (鳥取大学非常勤講師)

学生の読書離れが叫ばれて久しく、スマートフォンの普及がそれに拍車をかけている昨今、学生を読書に誘う即興劇「しりとりで本と出会う」「注文の多い料理店」「ど

んぐりと山猫式「本」の裁判」の取り組みに関する講演でした。

即興劇と言われてもいまひとつピンときませんが、司書が演出家、利用者が役者、図書館が舞台、本が小道具と位置づけ、「しりとりで本と出会う」では、しり通りの言葉の意味を調べる事から始まり、言葉に関連する本を探して気になる言葉や場面をカードに記載し、カードの内容を発表して他者と共有するという、アクティブラーニングを実践する取り組みでした。

「注文の多い料理店」では司書の注文に応じて学生が本を選び、「どんぐりと山猫式「本」の裁判」では読書ができないことを本のせいにして裁判にかけるという、いずれも逆転の発想で学生を読書の世界に誘う仕組みになっています。嫌いな本を探して、本の嫌いな理由を共有することは、読書が嫌いな学生でも楽しむことができる工夫です。

「言葉」を通して自分で考えて本を選び、本との出会いを大切にするとところから読書がはじまっているという、これまでの堅苦しく静的な読書のイメージを能動的なものに変えている点が素晴らしいと思いました。

講座②「図書館で本と出会う即興劇」の検証～読書の意味を問う内省のプロセス～

講師：木村 修一 氏（北海道武蔵女子短期大学教授）

木村氏が即興劇を大学で実践したところ、意外にも学生の評価が高かったため、その要因を検証した結果に関する講演でした。

即興劇から得られる学びの分析結果として、「A：自分の関心に立ち、思いがけない本に出会う」「B：他社の考え方を受け入れ、他者の本に興味を覚える」という内省のプロセスを通して「C：他人任せの本選びから、自分が本を選ぶ意味を知る」に到達することによって、自力で本を選ぶ達成感と喜び（内省）を経験し、本との出会いが読書だと考え、読書への意欲につながっているということでした。

このことから導き出される図書館の読書支援としては、参加者に自己の内面に意味を問う機会、読む意欲や関心を育てる環境を用意するということが大切とのことで、読書支援の指針として以下の3点があげられました。

- ①自力で本を探す行動プロセスを用意する
- ②相手の関心や認識の内側に目を向ける
- ③コミュニケーションの促進

学びとは「他者の言葉に耳を傾け、差異の中につながりを作り出し、他者との連帯をつむぎあげる行為」であり、即興劇は「経験的学びの機会を提供」「自己の内面に意味を問う内省の機会を提供」「読む意欲や関心を育てる環境を用意」を通じて、この学びを実現するものであり、図書館を舞台に様々な年代で実践し広めていくことが必要とのことでした。

動画①「時間泥棒をつかまえよう」

動画②「ドングリとヤマネコ裁判」

いずれも北海道武蔵女子短期大学木村専門ゼミナールの学生による即興劇の紹介動画で、完成度が非常に高く、実践内容がとてもわかりやすくまとめられていました。



動画②「ドングリとヤマネコ裁判」より

©2021 北海道武蔵女子短期大学木村専門ゼミナール

【視聴者の感想】（アンケートより抜粋）

<講座①について>

図書になじみのない子どもが主体的に本を選び、実際に読んでもらう試みとして大変面白いと感じました。お題に沿った本を探す過程で図書館を知ってもらえる良い機会になると思います。

<講座②について>

相手の考え方や価値観を知ることができるというのは大きなメリットだと思います。OPACを使用しないからこそ出会える、というのも印象的でした。

<動画①について>

タイトルに惹かれること、本の紹介に結びついているのが良かったと思います。

<動画②について>

内容はもちろん、本の嫌いなところとそれを弁護するという構成が面白かったです。

<研修会全体について>

図書館とそれ以外の職務を兼務するようになり、コロナ禍以前から外部研修にはなかなかいくことができなくなりました。そういう意味ではオンラインで今回のような研修があったのはとても助かります。来年度の図書館ガイダンスなどにも役立てたいと思っています。

▼『短期大学図書館研究』第42号（2023.3発行）原稿募集

ただいま2022年度発行『短期大学図書館研究』第42号の原稿を募集中です。

図書館に関する研究論文、調査・事例報告、情報・ニュース等、投稿してみませんか？今年こそはと思う方、詳細は私立短期大学図書館協議会HP（shitantokyo.org）「研究誌原稿募集」に掲載の募集要項等をご覧ください。皆様からの投稿をお待ちしています。

▼ 事務局だより

「図書館業務の相談窓口」について

日々の図書館業務上の個別相談を受け付ける「図書館業務の相談窓口」を設置しております。毛利名誉会長が相談窓口になり、質問内容から適任の相談スタッフ（本部理事）が回答・助言いたしますので、メールにてお気軽にご相談ください。

【相談窓口】名誉会長：毛利 和弘 mouri@asia-u.ac.jp

▼ 編集後記

今年度もコロナ禍により、総会は書面会議となり、会員館の皆様が直接顔を合わせる機会が減ってしまいましたが、定期総会記念講演会、全国研修会はオンラインで開催され、関東甲信越地区の研修会もオンデマンド配信で実施されました。研修会だけでなく、図書館総合展をはじめオンラインで開催される図書館関係のイベントが増え、地方の短大図書館からすると、経費や時間を気にすることなく気軽に参加して、最新の事例や情報を得ることができるようになりました。コロナ禍で大学の授業形態も変容しつつあり、それに合わせて図書館も変化が求められる時代にあって、研修や情報共有の機会を提供する協議会の役割は益々重要になってきているように感じます。

会報作成にあたり、ご協力いただきました方々に心からお礼申し上げます。

(新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部図書館 高野 聡)

